

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【人文社会科学部】

1. 教育課程の編成・実施等

人文社会科学部では、多元的な文化理解と現代社会に対する多面的理解を重視した教育カリキュラムを提供するという観点から、教養教育と専門教育の教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。

- (1) 教養教育については、以下の学習を実施する。
 - ・幅広い教養と外国語の運用能力をしっかりと身に付け、世界情勢や地域課題を的確に見極める力を養う。
 - ・基礎ゼミナール等の実践的学習をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、人間や社会に共通する課題を発見・解決する力を養う。
- (2) 専門教育については、以下の学習を実施する。
 - ・人文社会科学分野の専門知識・技能を獲得するとともに、英語をはじめとする外国語の運用能力を実践的な語学教育をとおして身に付けることで、人間文化を多元的に理解する力、現代社会の複雑さを的確に見通す力を獲得させる。
 - ・実習・演習や卒業研究等を通じて、地域の優れた伝統文化を含む自国の文化を創造・発信する力、地域課題を含めて、現実社会が直面する諸課題の解決に役立つ応用力・実践力を獲得させる。
- (3) 各課程・コースについては、以下の学習を実施する。

【文化創生課程】

文化創生課程では、人文科学分野の専門知識・技能等を学びつつ、国内外の歴史文化の価値を正しく評価する力、自国の文化を創造し発信する力を身につけることを重視した教育を提供するという観点に立って、コースごとの教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。

[文化資源学コース]

- ・有形無形の文化資源を適切に取り扱う専門的能力・技能を習得させることによって、その学術的価値を的確に見極める力を養う。
- ・文化資源の評価判定や保存等に関する専門的知識・技能を新たな文化資源の発掘等に役立てていくための実践力を養う。
- ・多様な文化資源を生み出した人類の叡智と精神を理解し、それらを人類共通の文化遺産として次世代に伝えていくことを社会的使命として、生涯にわたって実践していくことのできる探究力を身につけさせる。

[多文化共生コース]

- ・多文化共生の価値観に通暁した人間性の涵養によって、グローバル化が世界的規模で進展している時代の動向を見通す力を養う。
- ・国内外の歴史文化を深く理解しつつ、世界情勢を的確に見極めることによって、現代社会が直面する諸課題をグローバルな視点に立って解決していく力を養う。
- ・グローバル化の世界的進展という状況の中で、多元的な価値観と多様性認識に立った自己理解を生涯にわたって深めていくための探究力を身につけさせる。

【社会経営課程】

社会経営課程では、社会科学分野の専門知識・技能等を学びつつ、現代社会が直面するさまざまな課題を解決し、より良い社会を構築することのできる応用力を重視した教育を提供するという観点に立って、コースごとの教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。

[経済法律コース]

- ・経済学と法学の専門知識・技能をもとに、経済・金融・雇用・生活等にかかわる諸問題の状況を的確に見極めることのできる能力を養う。

- ・現代経済を広い視野に立って認識するとともに、法を体系的に理解するための基礎訓練を通して、創造的で公正かつ適切な問題解決力を身につけさせる。
- ・経済・法律上の諸問題を解決するための施策等を生涯にわたって積極的に探究していく力を獲得させる。

[企業戦略コース]

- ・経営学と会計学の専門知識・技能をもとに、新ビジネス・新産業の創出やイノベーション等にかかわる諸課題を的確に分析し見通す力を養う。
- ・地域企業の発展や地域産業の活性化に貢献しうる力を身に付けるために、課題発見力・課題解決力・企画提案力・コミュニケーション力を高めさせる。
- ・企業経営の諸課題を解決するための実効的な方策等を生涯にわたって積極的に探究していく力を獲得させる。

[地域行動コース]

- ・社会学・人類学・統計学・情報科学等の専門知識・技能をもとに、地域社会の成り立ちやあり方、地域住民の心理・行動等を的確に分析し見通す力を養う。
- ・フィールドワークと課題解決型学習等を通して習得した専門的知見を地域課題の発見・分析・解決に役立てるための実践力を養う。
- ・地域社会が直面する諸課題を解決するための具体的な手法等を生涯にわたって積極的に探究していく力を獲得させる。

(4) 教育カリキュラムの年次編成

1年次には、専門学習に取り組むための基本姿勢を身に付け、広い視野に立って学問的関心を養うことを目的として、主に教養教育科目と学部基本科目を履修する。1年次後半からは、各専門領域に関する講義等とおして、各課程・各コースの教育カリキュラムにもとづく専門学習に向けた理解を深めていく。

2年次から3年次にかけては、コースごとに設定されている教育カリキュラムの履修をとおして、自分自身の専門分野の知識・技能を深めていく。実習・演習等の実践的科目をとおして、研究者倫理も身に付ける。キャリア科目などの高年次教養教育科目をとおして、自分自身の人生や社会との関わりも考えていく。

4年次には、これまで学んできたことを「卒業研究」（または「特定課題研究」という自分自身の研究テーマに結実させていくことによって、卒業後の進路を見すえた専門知識・技能の定着を図る。

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともにキャップ制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学習を促す。
- (2) 各コースの履修体系図によりディプロマ・ポリシーと各授業科目の関係を明示して効果的な学習を促し、見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (3) 自ら課題を発見し、その解決に向けて探究を進め、成果を発表するための実践的な能力を身に付けることのできる、学生主体の能動的な授業を積極的に取り入れる。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPAを用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細と合わせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。